

3. 公園緑地における眺望景観のタイプ

3-1 公園緑地における眺望景観の4つのタイプ

原論編で紹介したような公園緑地からの眺望は、先に示した3つの分類軸を組み合わせ、概ね4つの眺望景観タイプに整理することができる。本手引き（案）では、この4つのタイプを公園緑地における代表的な眺望タイプとして扱う。次頁以降に各タイプの概要を示す。

表 3-1 ■眺望の分類軸と眺望の種類

眺望の分類軸	眺望の種類		
(1) 興味対象の所在	(1)-1: 興味対象が「園内」と「園外」にある眺望 興味対象が「園内」にある眺望 =本来的には園内だけで完結している眺望	(1)-2: 興味対象が「園内」にある眺望 興味対象が「園内」と「園外」にある眺望 =本来的には園内だけで完結していない眺望	(1)-3: 興味対象が「園外」にある眺望 主要な興味対象が「園外」にある眺望
(2) 水平方向の視野の広がり	(2)-1: 水平方向に視野の広がりがある眺望 (パノラマ景) 水平方向に視野の広がりがある眺望 =パノラマ景	(2)-2: 方向性が強く意識される眺望 (ビスタ景) 方向性が強く意識される眺望 =ビスタ景	
(3) 垂直方向の視野の広がり	(3)-1: ほぼ水平方向への眺望 (水平景) ほぼ水平方向の眺望 =水平景	(3)-2: 高所から見下ろす眺望 (俯瞰景) 高所から見下ろす眺望 =俯瞰景	

表 3-2 ■公園緑地における眺望景観の代表的な4つのタイプと分類軸の対応

(1) 興味対象の所在	眺望の分類軸		眺望景観の4つのタイプ
	(2) 水平方向の視野の広がり	(3) 鉛直方向の視野の広がり	
(1)-1: 「園内」と「園外」	(2)-1: パノラマ景	(3)-1: 水平景	タイプ A-1 園外+園外を眺望対象とした水平パノラマ景
(1)-1: 「園内」と「園外」	(2)-2: ビスタ景	(3)-1: 水平景	タイプ A-2 園内+園外を眺望対象とした水平ビスタ景
(1)-3: 「園外」	(2)-1: パノラマ景	(3)-2: 俯瞰景	タイプ B 園外を眺望対象とした俯瞰パノラマ景
(1)-2: 「園内」	(2)-1: パノラマ景	(3)-1: 水平景	タイプ C 園内を眺望対象とした水平パノラマ景

タイプ A-1 園内+園外を眺望対象とした水平パノラマ景

眺望対象	園内+園外	園外	園内
眺望景観の基本構造	水平パノラマ景	水平ビスタ景	俯瞰パノラマ景

園外の要素を園内の眺めと関連付け、園内と園外を同時に眺めることを意図して計画された公園緑地における、視点とほぼ同じ高さを中心に視野が広がる眺望景観である。視野の中に興味対象が存在することなどにより、視線の方向性が意識される場合もある。

このような眺望景観タイプを有する公園緑地の例として、後楽園（岡山県岡山市）など伝統的な日本庭園の借景庭園が挙げられるほか、岸公園（島根県松江市）、ポーアイしおさい公園（兵庫県神戸市）など新しい都市公園も挙げられる。



後楽園（岡山市）



岸公園（松江市）



ポーアイしおさい公園（神戸市） 出典：神戸市¹⁾



葉山しおさい公園（葉山町） 出典：葉山町²⁾

タイプA-2 園内+園外を眺望対象とした水平ビスタ景

眺望対象	園内+園外	園外	園内
眺望景観の基本構造	水平パノラマ景	水平ビスタ景	俯瞰パノラマ景

園外の要素を園内の眺めと関連付け、園内と園外を同時に眺めることを意図して計画された公園緑地において、視野が視点とほぼ同じ高さを中心に広がり、視野の広がりが見点近傍の要素により物理的に限定される眺望景観である。

このような眺望景観タイプを有する公園緑地の例として、平和記念公園（広島県広島市）、明治神宮外苑（東京都港区）、大通り公園（北海道札幌市）など人工物のシンボルをアイストップとするもの、宝野・奈良原公園（東京都多摩市）、吉野公園（鹿児島県鹿児島市）など独立峰などの自然物をアイストップとするものが挙げられる。



平和記念公園（広島市）



明治神宮外苑（港区）提供：松崎喬氏



大通り公園（札幌市）



吉野公園（鹿児島市）



宝野・奈良原公園（多摩市）

タイプB 園外を眺望対象とした俯瞰パノラマ景

眺望対象	園内+園外	園外	園内
眺望景観の基本構造	水平パノラマ景	水平ビスタ景	俯瞰パノラマ景

園外の要素を眺めることを意図して計画された公園緑地における、視点より下方を中心に視野が広がる眺望景観である。視野の中に興味対象が存在することなどにより、視線の方向性が意識される場合もある。

このような眺望景観のタイプ有する公園緑地の例として、中央公園（神奈川県横須賀市）、須磨離宮公園（兵庫県神戸市）、天橋立公園笠松地区（京都府宮津市）、眉山公園（徳島県徳島市）など、眼下に広がる水域や街並み、島嶼や独立峰などの要素を視対象とするものが挙げられる。



中央公園（横須賀市）



須磨離宮公園（神戸市）



天橋立公園笠松地区（宮津市）



眉山公園（徳島市）

タイプC 園内を眺望対象とした水平パノラマ景

眺望対象	園内+園外	園外	園内
眺望景観の基本構造	水平パノラマ景	水平ビスタ景	俯瞰パノラマ景

園外の要素を眺めることを意図せず計画された公園緑地における、視点とほぼ同じ高さを中心に視野が広がる眺望景観である。

このような眺望景観のタイプ有する公園緑地の例として、浜離宮恩賜庭園（東京都中央区）、旧古河庭園（東京都北区）、などの伝統的な日本庭園や旧邸宅庭園のほか、勾当台公園（宮城県仙台市）、日比谷公園（東京都千代田区）などの近代以降の公園緑地も挙げられる。



浜離宮恩賜庭園（中央区）



旧古河庭園（北区）



水前寺公園（熊本市）



縮景園（広島市）



勾当台公園（仙台市）



日比谷公園（千代田区）

3-2 各眺望景観タイプの基本構造と課題

ここでは、各眺望景観タイプの基本構造を解説し、各眺望タイプにおける眺望阻害の要因（課題）を紹介する。

タイプA-1 園内+園外を眺望対象とした水平パノラマ景

【基本構造と課題】

(1) 眺望景観の基本構造

「園内+園外を眺望対象とした水平パノラマ景」は、山並みなどの園外の要素を借景として園内の眺めと関連付けていることが最も大きな特徴となる眺望である。

眺望景観を構成する要素は、大きく園内と園外に分かれ、いずれも重要な要素として位置づけられる。園内の要素は、視点近傍、園内部、園地縁辺部に区分され、園外の要素は、借景要素の前景エリア、借景要素、借景要素の背景エリアに区分される。

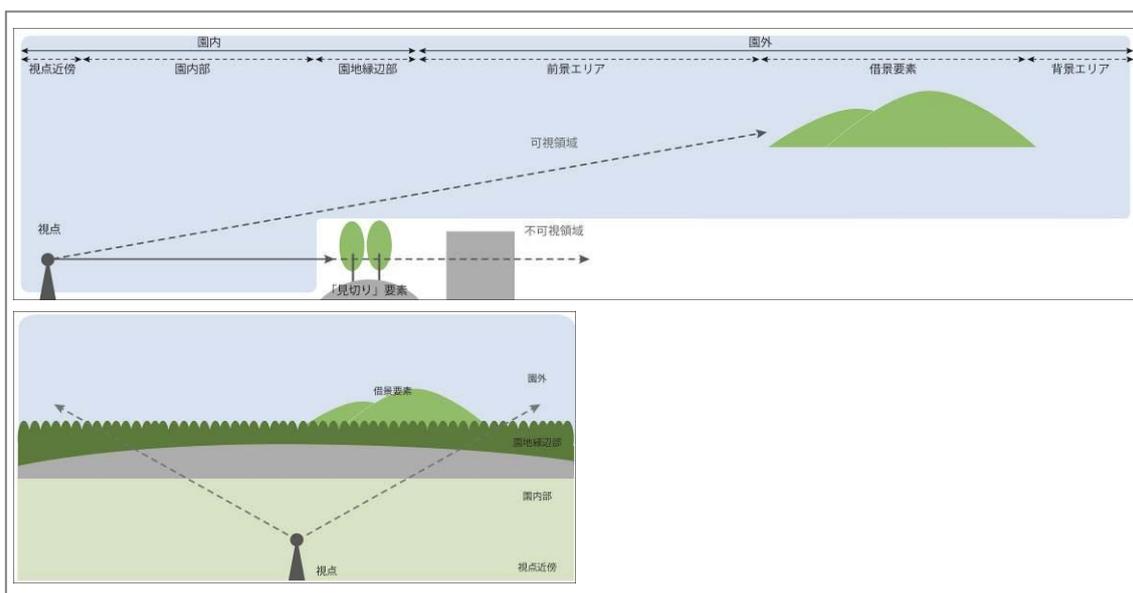


図 3-1 ■タイプA-1（園内+園外）：水平パノラマ景の構造概念図（上：縦断方向、下：視線方向）

構成要素それぞれの基本的性格と景観的役割は、以下に示すとおりである。当該眺望景観では借景要素が重要な存在であり、それを引き立たせるための空間のあり方が基本となる。

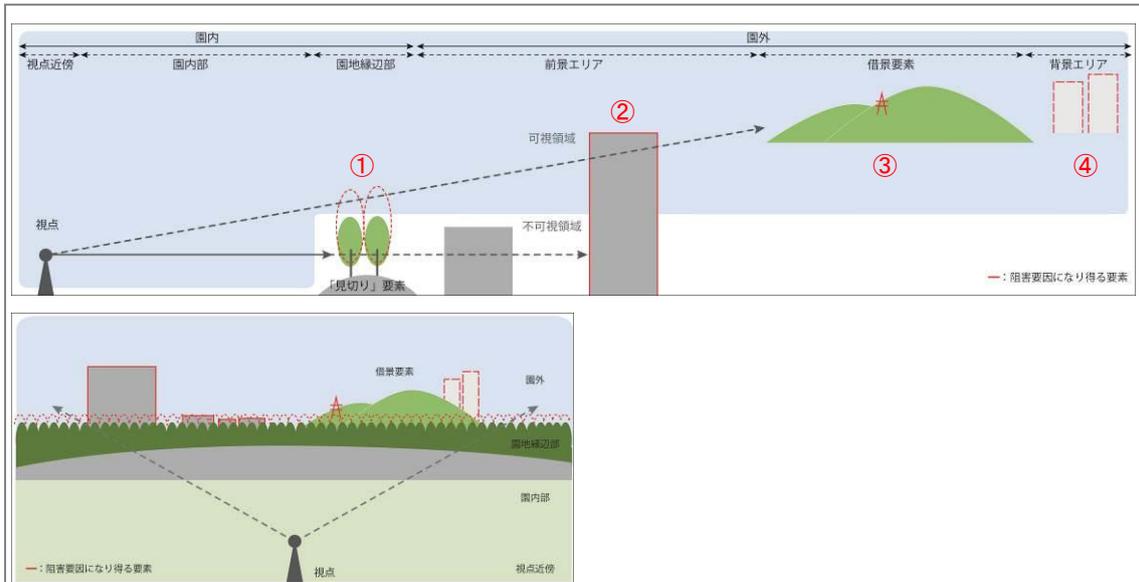
表 3-3 ■構成要素の基本的性格と景観的役割

構成要素		基本的性格	景観的役割
園内	視点近傍	眺める人の居心地感覚に働きかける構成要素	居心地の良い視点場
	園内部	園外要素の眺めと一体となって一つのまとまりを有する構成要素	園内景としてのまとまり
	園地縁辺部	園地外周の要素であり、「見切り」が設けられるのが一般的	園外前景エリアの要素の見えるための「見切り」の形成
園外	前景エリア	借景要素と園地との間に広がる借景要素の前景となるエリア	眺望景観を成り立たせる引きを確保するための「空」の空間
	借景要素	園内の眺めに関連付けられ、当該眺望景観を成立させる重要な要素	眺望景観を成立させる基本要素
	背景エリア	借景要素の背後に広がる借景要素の背景となるエリア	背景としての均質な「地」の空間

(2) 眺望景観の課題（阻害要因）

当該眺望景観においては、園内の眺めと一体となった借景要素への眺望の維持がもつとも重要である。特に借景要素付近に阻害要素が発生したり、構成要素が変化したりすることにより基本構造が保たれなくなった場合に、眺望景観が阻害される可能性が高くなる。

借景庭園などにおいては、法規制等のコントロールにより眺望が確保されていることがほとんどであるが、眺望阻害の可能性を整理すると以下ようになる。



①（園内）園地周辺部における阻害要素

園内植栽等の「見切り」要素により借景要素への眺めが遮られると眺望景観の価値が阻害される。園内においては、相応の維持管理が行われることが通常であり、一般的にノイズ発生の可能性は低い。

②（園外）前景エリアに発生する阻害要素

借景要素の前景エリアとしての「空」の空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。

園外の様々な開発・整備によって、借景要素への眺めを阻害するノイズが発生する可能性が高い。ノイズとなり得る要素としては、仰角、水平見込角等（規模）の大きい建築物・工作物やファサードや色彩等が統一されていない建築物、屋外広告物が挙げられる。



山並みへの眺望を阻害する高仰角の建築物

③（園外）借景要素自体の質の損失

眺望景観を成立させる基本要素としての質が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。借景要素自体に建築物・工作物等のノイズが発生する可能性はあるが、一般的にかなり遠景にあるため、景観的影響は相対的に小さい。

④（園外）背景エリアに発生する阻害要素

背景としての「地」的な空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。かなり遠景のため、背景エリアの性格を改変するようなノイズ発生の可能性は低い。

(1) 眺望景観の基本構造

「園内+園外を眺望対象とした水平ビスタ景」は、植生等の園内施設により、視線方向を園外の興味対象要素に向けて軸上に強調していることが最も大きな特徴である。

眺望景観を構成する要素は、大きく園内と園外に分かれ、いずれも重要な要素として位置づけられる。園内の要素は、視点近傍、園内部、園地縁辺部に区分され、園外の要素は、借景要素の前景エリア、興味対象要素、借景要素の背景エリアに区分される。興味対象要素は、記念碑的建物等の人工要素や独立峰等の自然要素の場合があり、それぞれの要素の大きさによって視線方向の意識のされ方は異なったものとなる。

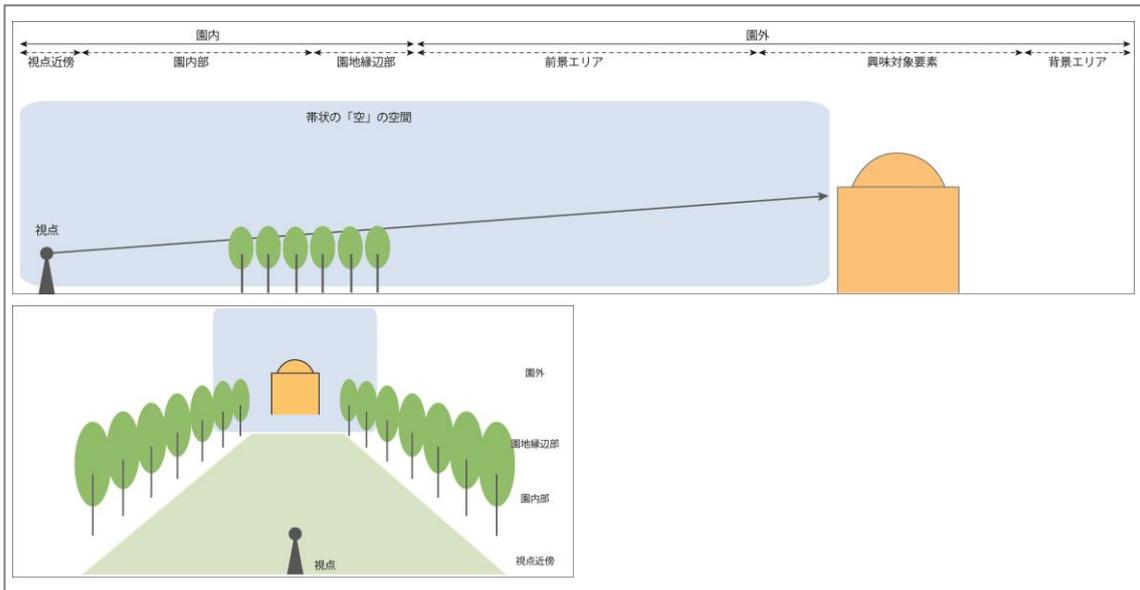


図 3-2 ■タイプA-2 (園内+園外)：水平ビスタ景の構造概念図(上：縦断方向、下：視線方向)

構成要素の基本的性格と景観的役割は、以下に示すとおりである。当該眺望景観では軸線上の興味対象要素が重要な存在であり、それを引き立たせるための空間のあり方が基本となる。

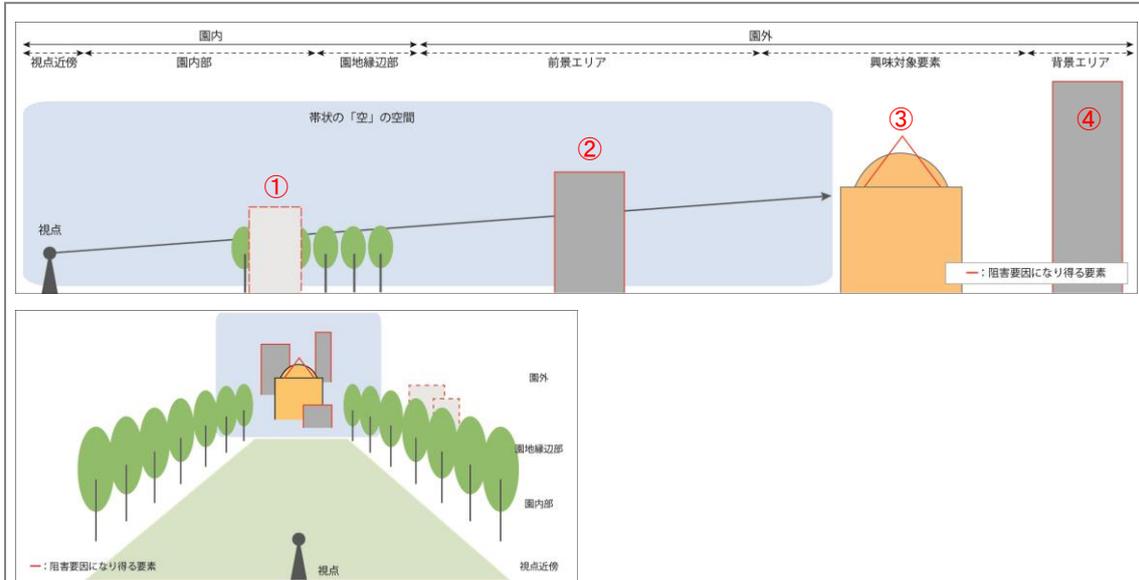
表 3-4 ■構成要素の基本的性格と景観的役割

構成要素		基本的性格	景観的役割
園内	視点近傍	眺める人の居心地感覚に働きかける構成要素	居心地の良い視点場
	園内部	園外の眺めと一体となって一つのまとまりを有する構成要素で軸線を意識した造形が一般的	園内景としてのまとまり
	園地縁辺部	園地外周に存在する植栽等の要素	水平パノラマ景と比べて景観構成要素としての意味は弱い
園外	前景エリア	興味対象要素と園地との間の帯状の空間	興味対象要素への視線を確保するための帯状の「空」の空間
	興味対象要素	園内の眺めに関連付けられ、当該眺望景観を成立させる重要な要素	眺望景観を成立させる基本要素
	背景エリア	興味対象要素の背後に広がる興味対象要素の背景となるエリア	背景としての均質な「地」の空間

(2) 眺望景観の課題（阻害要因）

当該眺望景観においては、ビスタ軸上に存在する興味対象要素への眺望の維持がもつとも重要である。ビスタ軸上に阻害要素が発生したり、構成要素が変化したりすることにより基本構造が保たれなくなった場合に、眺望景観が阻害される可能性が高くなる。

眺望阻害の可能性を整理すると以下ようになる。



①（園外）帯状の空間の両サイドに発生する阻害要素

興味対象要素への眺めには直接影響しないものの、興味対象要素との間の帯状の空間の両サイドに、園外のような開発・整備によって、小規模な阻害要素（建築物、屋外広告物等）が発生する可能性がある。当該眺望景観への阻害の影響は小さい。

②（園外）狭義の前景エリアに発生する阻害要素

狭義の前景エリアとは、ビスタ軸上の前景エリアの空間を指す。この興味対象要素との間の帯状の「空」の空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。園外のような開発・整備によって、借景要素への眺めを阻害する建築物・工作物等のノイズが発生する可能性が高い。

③（園外）興味対象要素自体の質の損失

眺望景観を成立させる基本要素としての質が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。興味対象要素が記念碑建物等の人工物の場合は外観の変化、独立峰等の自然景物の場合は開発などによる変化の可能性が高い。

④（園外）狭義の背景エリアに発生する阻害要素

背景としての「地」的な空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。興味対象要素の背後の様々な開発・整備によって阻害要素が発生する可能性が高い。



興味対象要素への眺望を阻害する建築物

(1) 眺望景観の基本構造

「園外を眺望対象とした俯瞰パノラマ景」は、高所から園外の広いエリアを見下ろす眺めであることが最も大きな特徴である。

眺望景観を構成する要素は、大きく園内と園外に分かれるが、園内要素の景観的意味合いは弱く、園外の要素が重要となる。園内の要素は、園内部と視点近傍に区分され、園外の要素は、前景エリア、興味対象エリア、背景エリアに区分される。

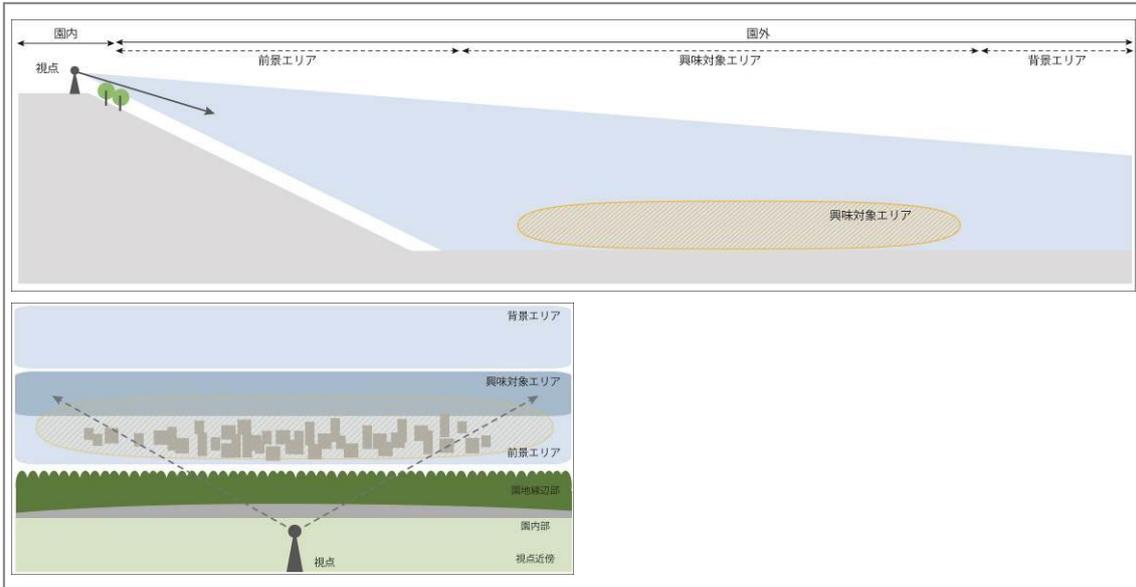


図 3-3 ■タイプB (園外)：俯瞰パノラマ景の構造概念図 (上：縦断方向、下：視線方向)

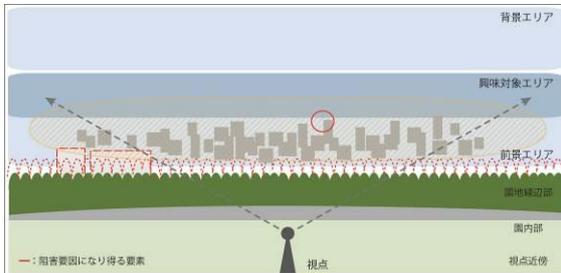
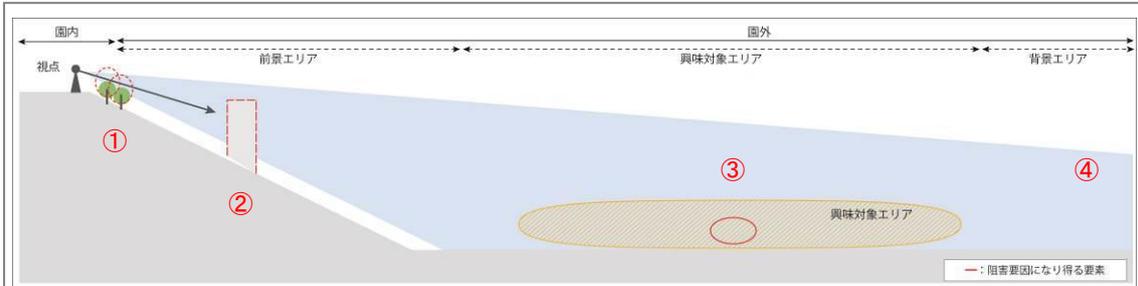
構成要素それぞれの基本的性格と景観的役割は、以下に示すとおりである。当該眺望景観では興味対象エリアが重要な存在であり、それを引き立たせるための空間のあり方が基本となる。

表 3-5 ■構成要素の基本的性格と景観的役割

構成要素		基本的性格	景観的役割
園内	視点近傍	園地端部に位置することが多く、人の居心地感覚に働きかける構成要素	居心地の良い視点場
	園内部	視点の背後に位置し、視点に至るアプローチ景観を形成する要素	景観構成要素としての意味は弱い
	園地周辺部	園地周辺の傾斜部等を形成する要素で、植生等の場合が多い	景観構成要素としての意味は弱い
園外	前景エリア	傾斜面であり、興味対象エリアと園地との間に広がるエリア	眺望景観を成り立たせる「空」の空間
	興味対象エリア	俯瞰される広範囲のエリアで同程度の規模の単位から構成される	当該眺望景観を成立させる重要な要素
	背景エリア	興味対象エリアの背後に広がるエリア	背景としての均質な「地」の空間

(2) 眺望景観の課題（阻害要因）

当該眺望景観においては、園外に広がる興味対象エリアへの眺望の維持と興味対象エリア自体の質の維持がもっとも重要である。前景エリアや興味対象エリアにおける阻害要素の発生や構成要素の変化などにより基本構造が保たれなくなった場合に、眺望景観が阻害される可能性が高くなる。眺望阻害の可能性を整理すると以下ようになる。



①（園内）園地周辺部における阻害要素

傾斜部の植生等の維持管理が行き届かず、興味対象エリアへの眺めが遮られると眺望景観の価値が阻害される。園内においては、相応の維持管理が行われることが通常であり、一般的にノイズ発生の可能性は低い。

②（園外）前景エリアに発生する阻害要素

借景要素の前景エリアとしての「空」の空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。傾斜部であることが多いため、興味対象エリアへの眺めを遮るようなノイズが発生する可能性は低いが、視点に近いほど眺望への影響は大きい。



前景エリアに発生する阻害要素（CG）

③（園外）興味対象エリア自体の質の損失

眺望景観を成立させる基本要素としての質が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。同程度規模の単位から構成される面としてのテクスチャを乱す要素の介入がノイズとなりやすい。ノイズとなり得る要素としては、仰角、水平見込角等（規模）の大きい建築物・工作物やファサードや色彩等が統一されていない建築物、屋外広告物が挙げられる。

④（園外）背景エリアに発生する阻害要素

背景としての「地」的な空間が損なわれると眺望景観の価値が阻害される。かなり遠景のため、背景エリアの性格を改変するようなノイズ発生の可能性は低い。

(1) 眺望景観の基本構造

「園内を眺望対象とした水平パノラマ景」は、園外の要素を眺めることを意図せず、園内で完結する眺めとして計画されたものであることが大きな特徴である。

眺望景観を構成する要素は、大きく園内と園外に分かれるが、園外要素の景観的意味合いは弱く、園内の要素が重要となる。園内の要素は、視点近傍、園内部、園地縁辺部に区分され、園外の要素は、背景空間としての近景エリア、遠景エリアに区分される。

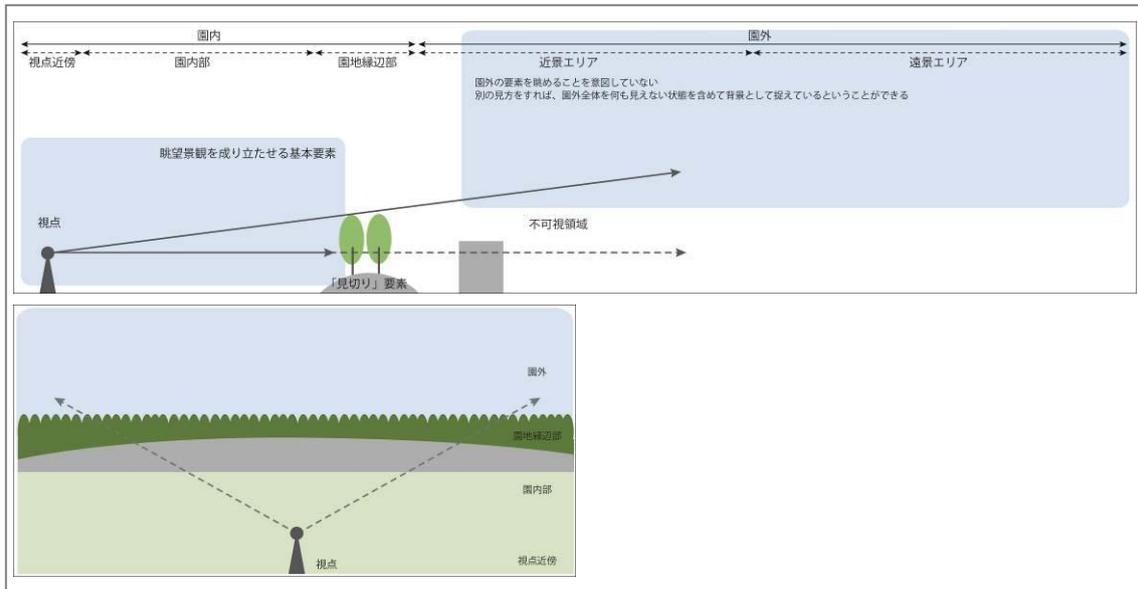


図 3-4 ■タイプC (園内)：水平パノラマ景の構造概念図 (上：縦断方向、下：視線方向)

構成要素それぞれの基本的性格と景観的役割は、以下に示すとおりである。園内の要素は眺望景観を成り立たせる基本要素として重要であるのに対し、園外の要素は景観的役割が弱く、背景としての均質な「地」の空間であることが求められる。

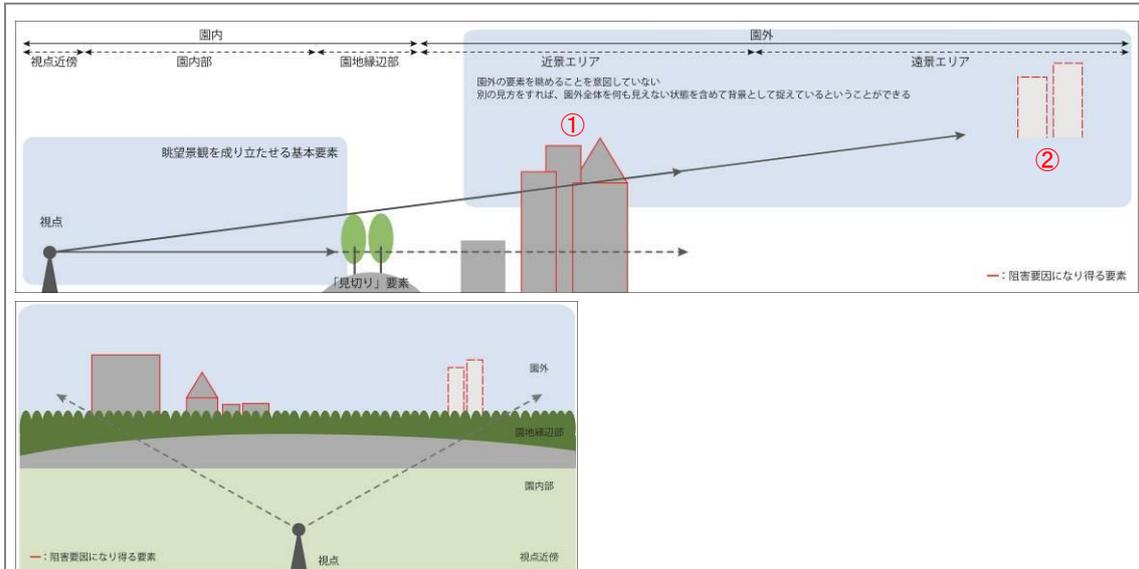
園外について「空」としての空間が確保できる場合は、建築物等の規模の制限等による「地」の空間としてのコントロールが必要であり、「空」としての空間が確保できない場合は、建築物の意匠等による質の高い「地」の空間としてのコントロールが必要になる。

表 3-6 ■構成要素の基本的性格と景観的役割

構成要素		基本的性格	景観的役割
園内	視点近傍	眺める人の居心地感覚に働きかける構成要素	居心地の良い視点場
	園内部	園内で簡潔する一つのまとまりを有する構成要素	当該眺望景観を成立させる重要な要素
	園地縁辺部	園内で完結する景のまとまりの施設を高める構成要素	園外の要素の見えを抑えるための「見切り」の形成
園外	近景エリア	背景空間の中で園地に近いエリアで眺望景観に対する影響は大きい	背景としての均質な「地」の空間
	遠景エリア	背景空間の中で園地に遠いエリアで眺望景観に対する影響は小さい	背景としての均質な「地」の空間

(2) 眺望景観の課題（阻害要因）

当該眺望景観においては、園内で完結する園内景と園外の背景としての均質な「地」の空間の維持がもっとも重要である。園外の背景としての均質な「地」の空間が乱されたり構成要素が変化したりすることにより基本構造が保たれなくなった場合に、眺望景観が阻害される可能性が高くなる。眺望阻害の可能性を整理すると以下ようになる。



① (園外) 近景エリアに発生する阻害要素

背景としての均質な「地」の空間であることが損なわれると眺望景観への影響が大きくなる。園外の様々な開発・整備によって、ノイズが発生する可能性が高く、特に近景エリアでは、それらのノイズが「図」として目立ちやすく眺望景観への影響度が大きい。ノイズとなり得る要素としては、仰角、水平見込角等（規模）や意匠が統一されていない建築物、色彩が統一されていない屋外広告物などが挙げられる。



質の高い「地」の背景空間が形成されていない例（近景エリアに規模や意匠が不揃いな建築物が発生）



質の高い「地」の背景空間が形成されている例

② (園外) 遠景エリアに発生する阻害要素

背景としての均質な「地」の空間であることが損なわれると眺望景観への影響が大きくなる。園外の様々な開発・整備によって、建築物・工作物等のノイズが発生する可能性が高いが、遠景であるため見えの印象は弱く、眺望景観への影響度は小さい。